

とを「焙烙灸」と言うようになりました。そして、弘法大師がこの「焙烙灸」の効能を熱心に説いたと言われている。

その結果、全国各地のお寺や巡礼地で、一年で最も暑い盛り、「土用の丑の日」や弘法大師のご縁日（毎月二十一日）に「焙烙灸」を行おうようになったそうです。

この覚山巡礼地において、編集部が確認できた「焙烙灸」を行って来たのは、焙烙灸七番札所（日泰寺東側）八です。ほかにもあるかもしれませぬ。

医学的には、頭の上に「百会」のツボと言われる「ツボ」があるそうです。「焙烙灸」はその「百会」のツボに灸をして刺激すること、で、脳を活性化、ボケ防止、夏バテ防止をはじめ、心身の健康に對して効果があると言われている。そのため、「焙烙灸」は無病息災、身体健全を祈願する**お加持（祈祷）**となつています。弘法大師は医学的な知識もあつたのかもしれない。

「八十八カ所」の由来

ところで皆さん、過去の「八十八」巡礼地には、十か、一般的な「八十八」とか、いろいろな数があること

をご紹介しました。覚えていらつしやるでしょうか。

さて、「八十八カ所」の由来は何でしょうか？ いろんな説がありすが、「米」の文字から、**五穀豊稔を祈念する数字**であると言われたり、**厄年の合計**（男四十二、女三十三、子供十三）とも言われています。真相は何でしょうか。

では、その他の数（十七とか三十三）にもそれぞれ由来があるのでしょうか。「お遍路」は奥が深いですね。興味が尽きません。

それでは皆さん、また来月お会いしましょう！！



87 番札所の焙烙灸